

地域とともに歩む 弘前大学



タンザニアでの植林の調査風景



道端で乾燥される
切り出した板材

「世界に発信し、地域と共に創造する」をスローガンに掲げる弘前大学。各学部の研究を通して、さまざまな地域課題の解決に貢献する。

取り組みが評価され、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査（日経HR、日本経済新聞社）で、2022年に「地域の活性化に貢献している大学」全国1位になった。



を燃料に再び農地に火を入れる。火入れは植林地の地拵え、下草刈りを兼ね、作物の生育と樹木苗の活着を促進する。焼畑と林業を複合することで、コストを抑えながら大きな林業収入を得られ、食料も安定して生産できるようになる。

タンザニアの農民は政治や経済の変化にたびたび直面する中で、従来の生活様式や生業様式に外来の技術や仕組みを取り入れ、焼畑を行う環境創造型システムづくりに取り組んでいる。彼らのイノベーションのダイナミズムにほれ込み、近藤准教授は研究を続けている。

アフリカと日本の農山村での取り組み研究 地域社会の困難を乗り越える糸口に

弘前大学人文社会科学部社会経営課程地域行動コース
近藤 史准教授

地域課題の解決には、現場で観察したり話を聞いたりすることが欠かせない。机上で考えたことは画一的で、もつともらしいが現場で使えないものに陥りがち。現地に赴くことで地域の人びとの暮らし方や試行錯誤の経験の蓄積、無関係に見えたことの相関などに気付かされ、そこから地域の実情に即した方策を導き出せるようになる。

人文社会科学部社会経営課程地域行動コースの近藤史准教授は、アフリカや日本の農山村を研究フィールドにしている。アフリカのタンザニアで見聞した農林業の知見を活かしながら、津軽地域における持続



現地の地酒造りを体験

林福連携で漆の持続可能な生産へ

タンザニアで農林業の見聞を広げたのち、日本の農山村でも地域と関わりたいたいと思いから、津軽塗とそれに使われる漆に興味を持つようになった。現在、津軽地域で漆に関わる人がどのようにつながること、持続的な生産が可能となるのか研究している。

津軽塗に使われる漆の多くは他地域で生産されている。これを津軽産の漆に変えていければ、地元産の工芸品として付加価値を高めることができる。そこでウルシの苗木生産に取り組み平川市の障がい者就労支援事業所「きりんの里」、生産された苗木で植林に取り組み弘前市の林業会社「ミミズ」の活動に着目した。

ウルシは種をそのまま植えても発芽せず特殊な処理が必要のため、育苗に手間とコストがかかり、造林用の苗木生産を担う一

的な漆の生産の可能性について探る研究を行っている。人間の創造力や可能性を読み解き、その地域の未来や他地域のために応用できる知見を探ることこそがフィールドワークの醍醐味と言える。

タンザニアの革新的な農林業から得た知見

地域の人たちが環境と向き合いながら試行錯誤している農業を知るため出掛けたタンザニアでは、在来焼畑を環境創造型のシステムへと革新していくベナ族の人たちに出会った。都市部で燃料や建材の需要が高まる中、炭焼きや製材に使える樹木を育てながら高価で流通が安定しない化学肥料に頼らず、土壌に養分を供給できる方法として在来の焼畑が見直されていた。

畑に火入れ後3年間は、穀物と豆や野菜、芋などを混作し、それらの株の間に植林をする。植えるのは、植民地時代に工業用原料として持ち込まれた成長の早い外来樹。樹木が成長すると作物の栽培を止め、枝打ちなどの管理をしながら10年ほどで森林を回復させる。その後、伐採した樹木を炭焼きや製材に利用するとともに、残った枝葉

般的な種苗会社では取り扱にくい。一方、障がい者雇用の現場では、育苗工程を単純作業に細分化したり、未成熟種子や樹液採取後の廃材を用いたオリジナル商品を開発したりするなど、異なる障がいの特性に応じて取り組める作業を作り出すことができる。

2024年から毎年、きりんの里、ミミズと共同で、弘前市内の山林にウルシの苗木を植樹している。木材生産まで時間が掛かるスギやヒバに比べ、樹液の採取までの期間が比較的短いウルシの植林は、高齢化や人口減少、木材価格の低迷によって山林を利用・管理する人が減少し、獣害やごみの不法投棄、土砂災害などが発生する地域の社会課題を解決する可能性を秘めている。

近藤准教授は「持続可能な社会を考える際に、自然環境をただ守ろうというのではなく、守ることで何らかの利益を得られる仕組みをつくることが重要。ウルシの苗木生産および植林（林業）と障がい者の雇用（福祉）を掛けあわせた林福連携の取り組みは、タンザニアで行われている環境創造型の焼畑システムと同様に、地域社会の困難を乗り越える糸口になり得る」と話す。

参考：弘前大学がもつとわかるウェブマガジンhiroimga



漆掻き後の廃材（株式会社小西美術工芸社提供）を手にする
近藤准教授



弘前大学

青森県弘前市文京町1
TEL 0172-36-2111(代)
https://www.hirosaki-u.ac.jp/